

## 安全・健康の街づくりに向けた自治会との協働プログラムの実践

正会員 三浦昌生君

地域の環境整備を行政に任せることで済ませてきた現在、地域の安心・安全の失墜やコミュニティの衰退などの課題が露呈してきている。このような地域の現代的な課題に対して、受賞者は、住民自らが安全で健康的なまちづくりの担い手になることが重要との認識に立ち、住民の関心事である身近な環境を取り上げ、これまでにない優れた生涯教育プログラムを作成してきた。地域コミュニティの主体である自治会に着目し、長年にわたって実践してきた大学と自治会の協働プログラムは高い教育成果を上げたものと確信し、評価した。

本協働プログラムは、主に埼玉県南部地域の戸建て住宅地、集合住宅地、郊外の混合住宅地などさまざまなタイプの住宅地を対象として、研究室の学生と自治会住民とが協働で行なっている。快適な住環境形成の観点から、騒音、屋外照明、大気汚染など、それぞれの地域住民に関心の高い環境要素を抽出し、測定・分析するプロセスを学生と住民が役割を持って執り行い、データを共有し考察を深めていく。学生と住民両者にとって、非常に忍耐のいる作業と推察できる。それだけに、その効果も大きいであろう。

2001年からはじまった協働プログラムの実践は、10年が経過し、これまでに、30自治会が参加し、住民の参加延べ人数は5,911人に達しており、地道に取り組んできた成果が数値に示されている。このことは、多くの自治会に受け入れられ、広く協働のプログラムが展開し、浸透してきた証と言えよう。また、住民自らが主体的に環境測定をすることにより、環境の実態を知り、環境改善に関心が高まっていく。さらに、地域の環境改善を実践した事例も多くあがっているなど、教育効果が実証されている。

専門性を必要とする環境測定を、学生を通して住民に実践させるという協働プログラムは、学生、住民両者に相乗的な教育効果が生まれる特色のある優れた建築教育プログラムであると評価すると共に、地域住民の環境への意識を向上させる生涯教育の一環として、今後の新たな展開や社会貢献も期待できる。

よって、ここに日本建築学会教育賞（教育貢献）を贈るものである。